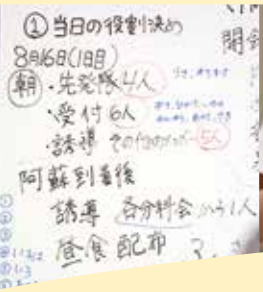
第18回国際ボランティア ワークキャンプ in ASO

～ Restart Nothing's Stopping us ～

2023年８月16日(水)～18日(金)

国立阿蘇青少年交流の家



国際ボランティアワークキャンプ実行委員会

事業助成：「(公財)中島記念国際交流財団助成」(独)日本学生支援機構留学生地域交流事業

Contents

ページ	内容
02	目的・概要
03	未来職道協力者／スケジュール
04	開会式／基調講演
	第１分科会「多文化共生」
05	第２分科会「紛争・平和」
	第３分科会「教育」
06	第４分科会「子どもの権利」
	第５分科会「国際協力」
07	第６分科会「環境」
	全体交流会
08	未来職道／全体報告会
09	各分科会アドバイザーからの講評、閉会式お礼のメッセージ
10	アンケート報告

目的

高校生や大学生たちの若い人材の「生きる力」を育む！

21世紀の教育におけるキーワードを「国際」と「ボランティア」と位置づけ、高校生が日々の地域でのボランティア活動などを点検しながら自ら企画、運営を行う国際ボランティアワークキャンプ（以下、「ボラキャン」と記述）を２泊３日で実施しました。このボラキャンは、日本や世界が直面している「紛争」や「飢餓」、「環境」、「人権」など様々な課題について関心を持つ高校生たちが毎年春ごろから学校の垣根を越えて集まり実行委員会（executive committee：以下、「EC」と記述）を組織し、主に夏休みに行う本大会に向けて企画・準備を行い、一般で参加する同世代の高校生たちと自分たちで出来る課題解決の取り組みを作り上げるもので2006年から開催しています。

18回目となった本年度のボラキャンは、コロナが５類に移行した後で行動制限もなかったことから４年振りに平年通りの活動プログラムを再開させ、テーマはコロナからの再出発という想いを込め、「Restart～Nothing's Stopping us～」と名付けました。

同世代の高校生や大学生、留学生、また、諸問題に取り組む大人たちとの交流を深めながら、とても有意義な時間になり、自己の成長につながっていくことを期待します。

概要

●開催日程
2023年８月16日(水)、17日(木)、18日(金)　２泊３日

●開催場所
国立阿蘇青少年交流の家
（阿蘇市一の宮町宮地6029-1）

●参 加 者
114人（高校生、留学生90人、大学生５人、アドバイザー、サポーター等14人、事務局５人）

●主催
国際ボランティアワークキャンプ実行委員会

●構成団体
熊本ユネスコ協会、税理士法人近代経営研究所、株式会社日本リモナイト、一般社団法人ドリーム・ラボ
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

●共催・協力団体
独立行政法人国際協力機構（JICA）九州センター
日本ボランティア学習協会、大学コンソーシアム熊本

●後援
熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社

●事務局
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

Schedule

8月16日（水） 1日目

9：30	集合・受付
10：00	出発（熊本市国際交流会館）
11：30	到着（国立阿蘇青少年交流の家）
12：00	入所オリエンテーション、昼食　@中研修室
13：15	開会式
	基調講演
	（興梠　寛氏　日本ボランティア学習協会代表理事）
15：00	分科会活動①
	第1分科会「多文化共生」　@中研修室
	第2分科会「紛争・平和」　@第2研修室
	第3分科会「教育」　@第5研修室
	第4分科会「子どもの権利」　@第3研修室
	第5分科会「国際協力」　@第7研修室
	第6分科会「環境」　@第1研修室
17：00	夕べの集い
17：45	（夕食）
19：00	交流会「キャンプファイヤー」　@草原ファイヤー場
21：00	入浴
22：00	就寝

8月17日（木） 2日目

6：30	起床
6：50	クリーンタイム（清掃）
7：00	朝の集い
7：45	（朝食）
9：00	分科会活動②
12：15	（昼食）
13：15	分科会活動③
17：00	夕べの集い
17：45	（夕食、入浴）
19：00	未来職道　@大研修室
21：00	フリータイム
22：00	就寝

8月18日（金） 3日目

6：30	起床
6：45	クリーンタイム（清掃）
7：00	朝の集い
7：45	（朝食）
9：00	分科会 発表会　@大研修室
11：00	講評（各アドバイザー）
12：00	閉会
12：15	（昼食）
13：15	退所
13：30	阿蘇神社視察
15：00	帰路
16：30	熊本市国際交流会館到着、解散

スペシャルサンクス（敬称略）

●未来職道協力者（13団体、個人、順不同）
- TEDx Kumamoto（英語のディベート活動）（松岡　祥仁、坂東　喜子）
- 一般社団法人日本ワーキングホリデー協会（留学）（藤田　逸郎、中田　由佳）
- NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと（多文化共生）（竹村　朋子）
- 日本語教師（日本語支援活動）（大住　葉子）
- JICA海外協力隊グローカルプログラム実習生（国際協力）（五嶋　友香）
- 独立行政法人国際協力機構（国際協力）（JICAデスク熊本　尾上　香織、木下　俊和）
- NPO法人東アジア共生文化センター（フェアトレード国際協力）（申　明直）
- 認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン熊本グループ（国際協力）（岩坂　省吾）
- 九州地方環境パートナーシップオフィス（環境）（勝家　伸男）
- 日本ボランティア学習協会（ボランティア）（興梠　寛）
- 阿蘇ジオパーク推進協議会（永田　紘樹）
- 平和大使活動（令和5年度平和大使　嶌村　理彩）
- ボラキャンEC（現EC）

●分科会アドバイザー

第1分科会「多文化共生」	大住　葉子、竹村　朋子、五嶋　友香
第2分科会「紛争・平和」	八木　浩光、大和　賢佑
第3分科会「教育」	加藤　理人、木下　俊和
第4分科会「子どもの権利」	岩坂　省吾
第5分科会「国際協力」	尾上　香織
第6分科会「環境」	勝家　伸男

●講師
興梠　寛氏（日本ボランティア学習協会代表）

●通訳
ラザフィマナンテナ　仁美（英語）　李　婧怡（中国語）

●大学生サポーター（OB、OG）
前川　福美、工藤すみれ、山川　恩
巫　欣雯、黄　惟珊（台湾崑山科技大学からのインターン生）

●事務局
八木　浩光、勝谷　知美、徳淵　健一、田上　美奈、マグダレナ ムジゴト

「開会式・基調講演」

基調講演　興梠　寛氏（日本ボランティア学習協会代表理事）

「make A difference 私が変わる、世界は変わる」　つながる、つなぐ、わかちあう　We ♡ Volunteers!

報告者：古賀　咲希（九州学院高校）

国際ボランティアワークキャンプ in ASO(通称、ボラキャン)は、新型コロナが５類に移行されたため、以前のような活動で開催することができました。ボラキャンの参加者は総勢114名で、内訳は高校生、留学生90名、大学生５名、アドバイザー、サポーター14名、事務局５名に参加していただいたことに心から感謝しています。その中にはミャンマーの留学生や台湾からのインターン生、また、中国、韓国、フィリピン、ベネズエラにルーツを持つ高校生たちにも参加していただき、国境を超えた幅広い学びができました。ボラキャンは、高校生等の若い人材の「生きる力」を育むことを目的とし、学校の垣根を越えて高校生が集い、世界的な課題（紛争や子どもの権利、国際協力、環境問題）や、身近な問題（多文化共生や教育等）の課題について自ら考え、意見を出し共有できる場所です。当初からボラキャンに携わっていただいているアドバイザーが制作されたオープニングムービーから今までの様子がうかがえ、過去のECたちの熱い想いを感じ、これから始まる３日間を楽しみにしているように見えました。

基調講演では、興梠　寛先生から表題テーマについてお話を聞くことができました。新型コロナの拡大や紛争問題は私たちにも衝撃的な出来事でしたが、「Volunteers are a bridge to hope（ボランティアは希望の架け橋）」とボランタリーな生活が私たちの希望につながるというところがすごく印象に残っています。他にもたくさんの興味深い話があり参加者みんなでボランティアとは何かを考えることができたと思います。ボラキャンの歴史を知り、ECや参加者にとっても改めてボラキャンへの想いが高まり、いいスタートがきれました。

第１分科会　「多文化共生」　参加者20名

報告者：小島　優里（必由館高校）

ECメンバー：佐藤　美優里、李　明禹、カリエハ テリシャメイ

私たちの分科会では、「外国人が住みやすいまちづくり」をテーマに活動しました。近年、多くの外国人や外国にルーツを持つ方々をよく見かけます。そのような人たちに対し、私たちの勝手な先入観を押し付けているのではないかと考え、先入観をなくし異文化理解を深めてほしいという思いでこの分科会を立ち上げました。

一日目は「自己紹介ゲーム」というアイスブレイクをしました。自分のことについて４つ紹介し、その中に一つ嘘を含ませ、その嘘を当てるというゲームで参加者同士のことを知ったあと、何故、この分科会を選んだのか、このテーマを考える上での目標を書いてもらいました。その後、多文化共生のイメージについてグループ内で話し合い、各グループの代表者に発表してもらいました。そして定義について考えました。二日目は、多言語でコミュニケーションを取ることの難しさを実感してもらうため、アイドポーポーというアイスブレイクをしました。これは中国のゲームで１～５までの数字を全員に配り、指定された数を作れるように人を集めるというものですが、今回はフィリピンにツールを持つECがいたのでタガログ語を使うよう１から13までの数字を教えました。タガログ語を使うというルールを作っていたので、中々、数えられず難しそうにしている様子が見られましたがとても楽しそうでした。次に留学経験があるECが実際に体験して思ったことや、日本に住む外国人たちはどの国籍や在留資格が多いかを学び、近年、何故ベトナム人が増加しているのかについてグループで話し合い考え、話が進むようにECがヒントを出すなど工夫をしました。次に中国とフィリピンにルーツを持つECから熊本に来た当時の体験談を話してもらい、出身国との価値観の違いなどを聞き、やはり先入観を無くすことの大切さを改めてみんなで学びました。午後からは、日本とオーストラリアの外国人受入の対策の違いについて発表しました。みんなが親しみを持てるように、なぜオーストラリアに着目したかを話すように工夫しました。また、両国の外国人政策の違いを知り、外国人のために自分たちができること、行政ができることの２つに分け、みんなで考えてもらいました。中々意見が出てこないグループには、ECがヒントを出して話し合いが進むように工夫しました。

最後に冒頭のテーマのために自分に何ができるのかを考えて報告書を作りました。この意見の中に、ジェスチャーや簡単な英語を使って話すなど私たちが考えてほしいことが伝わっていたので嬉しかったです。三日目の最終日は初日にうまく行かなかったところを二日目に活かし、大事なことは２回言うなど意識して進行しました。参加者たちもそれぞれが意見を持っていたため問題なく進行が出来、良かったです。参加者の皆さんを始め、ECや分科会活動に関わってくださった皆さんに感謝しています。本当にありがとうございました。

第２分科会 「紛争・平和」

参加者11名

報告者：田口　紗瑛（八代高校）
ECメンバー：嶌村　理彩

私たちの分科会では、ウクライナ侵攻や核兵器、紛争の問題など世界中が注目している問題について興味や関心を持ち、少しでも「紛争・平和」を身近に感じてもらうということを目標に活動しました。一日目は、仲を深めるためにアイスブレイクとしてバースデーチェーンと他己紹介を行いました。その後、「平和すごろく」という紛争・平和だけでなく、環境問題や貧困や子ども兵士のことなど社会全体の問題が取り上げられているすごろくゲームを行い、この中のクイズに世界には子ども兵士が25万人いることや、安全な水を飲めない子どもが10人に３人いることなど初めて知ることが多くありました。次に、自分が考える平和の色、平和な状態とはどんな状態かについて話し合いました。平和の色については、白、黄色、緑、青と様々な色があり、それぞれが抱いている平和のイメージ色が違うことを知りました。また、平和とは何かの問いには、「家族みんなでご飯を食べているとき」、「やりたいことができる」、「戦争がない世界」などの意見が出ましたが、日本とは全く環境が異なるシリアや、アフリカの子どもたちが考える平和について動画を見てみると、「兄弟と会えること」、「子どもたちが笑って過ごせること」などと、私たちが当たり前だと思っているものが多く出てきたため驚きました。

二日目は、世界の紛争の現実について、早稲田大学の田辺先生にオンラインにてお話ししていただき、紛争の原因や特徴、難民などについて学びました。文化や価値観の違いが原因で紛争が始まり、ウクライナだけでなくアフガニスタンやシリアなどでも長期間の紛争が起こっていることを知りました。意見が違ってもすぐに良し悪しを判断するのではなく、心に余裕を持ってその理由や背景を知ることが大切だということを学びました。また、平和構築についても話していただき、積極的平和と消極的平和があること、自分が達成したい平和やグローバルレベルで必要な平和とは何か、それを達成するためには何が必要なのかを考えることが重要だとわかりました。その後、熊本大学の野尻さんにもオンラインで登場いただき、ウクライナ支援のためポーランドで活動されたこと、熊本に帰ってからの活動について話していただき、様々なことに興味を持つことや、人とのつながりの大切さなどを学びました。最後は全体報告会に向けてこれまでの活動をまとめてポスターにしました。今回のボラキャンの活動を通して、平和のために今すぐできること、高校時代にできること、大人になってできることの３つをロードマップという形にしました。三日目の全体報告会では、２日間で学んだことや考えたことを一人一人の言葉でわかりやすく伝えることができました。この３日間で、今回の分科会の目標であった「紛争・平和」を身近に感じてもらうことができたのではないかと思います。そしてなにより参加者のみなさんが楽しんでくれたことがECとしてとても嬉しかったです。参加者のみなさん、これまで支えてくださった方々、本当にありがとうございました。

第３分科会 「教育」

参加者15名

報告者：前田　祐輔（文徳高校）
ECメンバー：松野 栄大郎

この分科会では、主に学校を楽しくするためにはどうすれば良いかを自分なりに考え、意見を持ってもらうために活動してきました。一日目は自己紹介、他己紹介、二つの真実と一つの嘘というアイスブレイクを行いました。初めて会った参加者たちでしたが、それぞれ質問や話題が出来て、話が盛り上がっていました。その後、「なぜ明治以降、日本人の就学率が上がったのか」というテーマで話し合いをしてもらいました。参加者たちは予め配付した資料からそれぞれの視点から推測して意見を広げてくれました。その様子を見ていて、レベルの高さが伝わってきました。二日目は、学校にどんなものがあれば良い学校生活を過ごすことができるだろうかということをグループごとに話し合ってもらいました。学校が違うと欲しいものも変わり議論の幅を広げることに繋がっていました。また一日目には出来なかった「この分科会で学びたいこと」や「ボラキャンに来ようと思った理由」、「この分科会の趣旨説明」を行いました。

午後からは、実行委員のプレゼンを行いました。それぞれ「日本の学校に足りないこと」、「世界の教育の特徴」をテーマにプレゼンを行いました。途中、小学校の英語教育は早いうちから行うべきなのかということで随分と議論が盛り上がっていました。この議論を活かした方向に進めることもできたのではないかと柔軟性が足りないと感じました。

その後、各自、理想の教育を考えてもらいました。その内容は似ているようで違い、新たな発見も多くありました。その後に行ったポスター作りではデザインを決めることに難航しましたがなんとか完成させることが出来ました。この３日間の交流を通して自分が得意な事、必要な事が実感できたのではないでしょうか。今回の経験を是非、家族や友人と共有して新たな道を一歩チャレンジしてみてはどうでしょう。ボラキャンの参加者をはじめ、事務局、アドバイザー、OGOBの皆さん本当にありがとうございました。

第4分科会 「子どもの権利」

参加者12名

報告者：杉浦　光里（八代白百合学園高校）
ECメンバー：吉田　いろは

私たちの分科会は、「自分にできる何かを見つける」ということを目標に活動を行いました。一日目は、アイスブレイクとして他己紹介と山手線ゲームを行い、「児童労働」と「子どもの権利条約」について触れていきました。

「児童労働」では、それを身近に体験してもらうために、「児童労働カードゲーム」を行い、児童労働とは何か、なぜ起こるのかなどを学んでいきました。「子どもの権利条約」では、「自分が思う子ども像」をそれぞれ描いてもらい、そのイラストを共有しました。参加者たちからは「野球少年」や「楽しく遊んでいる」など様々な回答が出ました。

二日目は、いじめと虐待について深掘りし、アドバイザーの岩坂さんからお話をしていただきました。いじめでは、いじめの種類やランキングをクイズにして、いじめにはどんな種類があるのか、どの種類が多いのかなどを考えてもらいました。アクティビティの最後には、「いじめが起きない環境にするために自分に何ができるか」を考えてもらいました。虐待では、実例を元に虐待とはなにかを考え、意見を交換してもらった後、「虐待を未然に防止するために、私たちにできることはなにか」を考えてもらいました。午後からは岩坂さんからお話をしていただいた後、「子どもが守られない世界」を中心にウェビングをしました。人口減少、栄養不足、子ども兵などたくさんの意見が出ました。そして、関連している意見を丸で囲い、どのような問題が出てきたかまとめ、どの問題を解決させたら子どもを守ることができるのか話し合ってもらいました。

しかし、その答えは一つではなく、全部を解決しないと問題の解決にならないとネタばらしをしたときはみんな驚いていました。ウェビングが終わった後、「Gift+isuee=Change」を行い、自分の得意なこと、取り組みたい問題、自分ができることについて考えてもらいました。このアクティビティでは、「音楽+子供の孤立=一緒に音楽を楽しむ」「吹奏楽+感情問題=子どもたちの前で演奏し、心を安心させる」など色々な意見が出ました。最後に分科会全体の「Gift+isuee=Change」を考え、「音楽を聞く+感情問題=自分の好きな曲を聞いて、いろんな物を使って自分なりにアレンジして弾く」という意見を出しました。そして自分にできることを「I can カード」に書いて、みんなに宣言してもらいました。

三日目の全体報告会では、自分たちの学んだことをみんな自分の言葉で参加者に伝えることができていました。この分科会は、児童労働、いじめ、虐待などの現状を知ってもらい、「自分にできるなにか」について考えてほしいという思いで立ち上げたので、少しでも、小さなことでも良いので、みなさんにも「自分にできるなにか」を考えてほしいなと思います。

第5分科会 「国際協力」

参加者18名

報告者：北岡　芽依（熊本学園大学付属高校）
ECメンバー：髙本　いろは、高浪　悠里

私たちの分科会では〝あなたの一歩が未来を変える〟のスローガンのもと、貧困や労働問題、フェアトレードを主な議題とし、今起きている世界の現状を知り、何のために国際協力があるのか、参加者たちとディスカッションしながら考えました。一日目は自己紹介サイコロを使って自分の名前と学校名を言った後、それぞれのお題に答えてもらいました。次にSDGsを使った絵合わせパズルを行い、仲を深めてもらったあと、国際協力と貧困・労働問題についてプレゼンを行いましたが、参加者たちが真剣に聞いてくれたので十分に内容を理解してくれたと思います。

二日目は、先ずイントロクイズを行い、盛り上がったあと貿易ゲームを行いました。私たちECが思っていたよりも参加者たちは上手く交渉し、今なにをするべきか考えていた人が多かったように感じました。その後、アドバイザーの尾上さんにJICAとはどういう団体で、どういった活動を行っているのかについて教えていただきました。この話は興味深い内容で国際協力について考える良い機会になりました。午後からは、参加者たちに何も言わずにフェアトレードチョコと紅茶を配り、フェアトレード産品の美味しさを十分に堪能してもらった後、フェアトレードについてのプレゼンを行い、意外と知らないフェアトレードの歴史やフェアトレードの言葉の意味などを学び、貧困・労働問題から想定される問題を付箋に書き出しウェビングのように繋げていきました。ECは各グループを周りながらアドバイスしていきましたが、どの班も入り切らないぐらいの付箋を書いていたので驚きました。その後、アドバイザーの木下さんより、貧困問題で実際に起きていること、そこから何が生まれてしまうのか、特にフィリピンのゴミ山の写真を交えながらお話をしていただきました。平和な日本で暮らす私たちにとってゴミ山の写真は信じがたいものであり、私たち全員が衝撃を受けたと思います。次に全体報告会に向け２日間で学んだことを林檎カードに書いてもらい、それらをまとめた林檎の木を作成しました。全体報告用の模造紙作成が時間内で終わらせることが出来ず結果的にECだけで仕上げました。振り返ると参加者たちの中には雑談ばかりで手伝わない人もいたので本来であればECが注意しなければいけない場面が多かったように感じました。全体報告会では、自分たちが分科会で何を知り、何について考え話し合ったかを報告することができ、質問にもしっかり対応することができたようでした。最後に、この分科会を終えて国際協力について学んだことは、世界には私たちが知らない大きな課題が山ほどあり、それに対して自分たちにできることは何かを考え行動することが重要だと思いました。ECとして活動する中で、思い通りに事が進まなかったり、自分の伝えたいことが伝わらなかったりと、つまずくことがありましたが、それらをただの失敗として終わらせるのではなく、次に同じことを繰り返さないように柔軟に考え、行動することが出来たと思います。私たちの分科会に参加して下さった参加者を始め、支えてくださった全ての方々に心からの感謝を申し上げます。

第６分科会 「環境」

参加者14名

報告者：坂上　絢咲（済々黌高校）
ECメンバー：古賀　咲希

私たちの分科会では、「共に考えて行動しよう、地球のために」というスローガンのもと、主に海洋プラスチックについての理解を深めるために活動を行いました。一日目、まずは趣旨説明を行い３日間どんなことについて活動していくのかを共有し、その後、自己紹介と「海の思い出」についてのディスカッションを行いました。同じ高校の人も少なく、学年もバラバラでしたが、思ったよりも早く打ち解けられたかなと思います。その後、海洋プラスチックについての現状を説明し、今、私たちが想像しているはるか何倍も深刻な状況にある事を認識していただき、それを踏まえた上でトレードオフゲーム（注）を行いました。分科会の参加者全員が積極的にゲームに参加し色々な視点や考え方の意見を積極的に出してくれたのでとても濃い時間になりました。

二日目は、実際に企業が取り組んでいる脱プラスチックの事例について説明し、その後、アドバイザーの勝家さんに私たちにもできるプラスチック削減についてお話をしていただきました。私たちにも分かりやすく具体的なお話をしていただけたお陰で参加者の理解もより深まったと思います。その後は消費する側から生み出す側に視点を変え、もし自分たちがプラスチック削減を推進する為の商品やサービスを考えるとしたらどのようなものを提案するかを話し合いました。最初は消費者とは逆の立場で考えなくてはいけないので意見が出るペースがゆっくりでしたが、１つ意見が出るとそれに連なる形で色々なアイデアが出て「あ、そういうの有ったらいいね！」と話が盛り上がりました。最後に全体報告会で使用するまとめを模造紙に作成しました。私たちの分科会は人数が少なかったのですが、最初に協力して役割分担を決め、全員が自主的に行動してくれたお陰で予定よりも早くすべてのまとめを完成することが出来ました。三日目の全体報告会では参加者全員が２日間で学んだことを自分の言葉で発表し、スムーズに進めることが出来たのでとても良い締めくくりが出来たと思います。

最後になりますが、今回の分科会に参加して下さった皆さんと長期間、色々な貴重なアドバイスを適時してくださり手伝っていただいたアドバイザーさんには心からの感謝とお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

（注）トレードオフゲームとは、“トレードオフ”についてより身近に感じてもらえるように金沢工業大学の学生が考案したアクションカードゲーム

報告書 全体交流会「キャンプファイヤー」

報告者：髙本　いろは（必由館高校）

一日目の夕方、参加者全員で草原に行きキャンプファイヤー交流を行いました。その直前、雷が鳴るなど雲行きが怪しくなり、もしかしたら別の交流プログラムに変更しないといけないかもと思いましたが、無事に行うことが出来ました。今回から行動制限などの影響を受けることが少なくなったため、キャンプファイヤーをやりたいとECで考え企画をしました。キャンプファイヤーの前では『バースデーチェーン』というジェスチャーだけで伝えるゲームを行いました。初日ということもあり緊張している様子が見られましたが、日が暮れていくうちに色々な人と関わり楽しんでいる姿が多く見られました。予定した時間よりも早く並ぶことができ、２回とも見事成功しました。

バースデーチェーンを終えた後は、火の女神（EC）による点火を行いました。最初は小さかった火も徐々に大きくなり、暗くなった草原を照らしだし、とてもきれいでした。参加者たちも写真を撮ったり、火を囲んで景品でもらったお菓子を仲良く食べたりしている様子も伺えました。また、『人探しゲーム』も行いました。予め配布した紙に書かれた項目の中からお題に沿う人をECのもとに連れてくるというゲームです。このゲームでは、難しいお題に加えて、【同じ学校以外の人】、【自分と同じ分科会以外の人】の２つの条件を付け加えたので、ECのもとに来ても条件に当てはまらずにやり直していた人も多く見られました。苦戦した人もいましたが、みんな自分から積極的に声を掛けていたので、このゲームをして良かったと感じました。その後のフリータイムでは、退屈になってしまわないか心配でしたが、交流している様子や楽しんでいる様子を見られて本当に良かったです！ECたちで臨機応変に対応できていない反省点もありましたが、今年は特に笑顔が輝いていたように思えます！参加者の皆さんにとってこの交流会が充実した思い出になることが出来れば嬉しいです。

出展団体13

「未来職道」

報告者：吉田　いろは（八代白百合学園高校）

未来職道は、二日目の午後７時から９時までの２時間、日頃、余り接する機会がない様々な民間団体からそれぞれの活動内容を聞く機会としました。今回、協力いただいた団体は「NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと」、「日本語教師」、「NPO法人東アジア共生文化センター」、「独立行政法人国際協力機構（JICA）」、「JICAグローカルプログラム実習生」、「Free The Children Japan熊本」、「一般社団法人日本ワーキングホリデー協会」、「EPO九州」、「阿蘇ジオパーク推進室」、「日本ボランティア学習協会」、「高校生平和大使」、「TED×Kumamoto」、そして次期ECを募る「ボラキャンEC」の13団体でした。最初に、各団体からの自己PRと、１団体15分までという各ブースを回るルールを説明した後、参加者たちそれぞれが興味のある団体ブースに移動してもらいました。参加者には６～７団体を回ってもらいました。多くの団体から各分科会に関わる話を聞くことができ、参加者たちも自分の関心をもっと深められたと思います。

また、「高校生平和大使」ブースは今回のECの一人でもあり、高校生平和大使熊本県代表を務めている嶌村さんでした。その嶌村さんに平和を実現するための活動や核廃絶への思いを話していただく機会にもなりました。参加者の中には未来職道が終わった後もブースへ行き質問している人もたくさんいました。私自身も、様々な話を聞くことができ、自分の思ってきたイメージや考え方の視野を大きく広げることができ、実際にやってみたい、参加したいという気持ちが湧いてきました。参加者のみなさんもここで学んだことを将来に繋げていけたらいいなと思います。今回、私たちのために阿蘇までお越しいただいた団体の皆様、本当にありがとうございました。

全体報告会

報告者：佐藤　美優里（必由館高校）

三日目の９時より、各分科会から成果を発表する全体報告会を行いました。この報告会では、各分科会で模造紙にまとめたことを、ブースに分かれて発表を行う形式にしました。参加者全員が発表の機会を得られるように、予めA～Fまでのグループに分かれ、発表５分、質疑応答２分という流れの繰り返しです。各分科会で模造紙の使い方が違っていて、グラフや図、絵、手形など様々な工夫が施されていました。限られた時間で多くのことを学び得たものを模造紙にまとめ、他の参加者に説明するということはとても大変なことだと思います。発表者の中には原稿を持たずジェスチャーなどで聞いている人に投げかけるように話をする人もいてとても印象的でしたが、中には、言葉が詰まったり、時間が余ってしまって無言の状態になったり、質問に上手く対応しきれなかったりしている人たちもいましたが、すぐにECがサポートに入り、積極的に質問をして場を和ませたりして良かったと思いました。

全体的にレベルの高い発表になったと思いましたが、反省点としては模造紙作成の時間をもっと取るべきだったと思いました。分科会によっては時間内に仕上げることが出来ず、夜中にECが完成させているところもありました。この模造紙の作成は、ただ文字や絵で紙をうめればいいのではなく、自分たち（参加者自身）が学んだことを他の参加者に「伝える」ことが目的なので、来年はこのまとめの時間を長めに取るようにしてスケジュール調整すると良いと思います。最後に、私は昨年もこのボラキャンを経験していますが、今回の報告会は昨年よりも更にクオリティが上がっていてとても良い雰囲気だったと思います。参加者の皆さん一人一人が自分の役割を持ち、一生懸命活動していて良かったと思います。良い報告会にしていただきありがとうございました。

「講評・閉会式」

報告者：松野　栄大郎（熊本学園大学付属高校）

本来、この時間は近畿大学の西尾雄志先生より三日間の総評とクロージング講演を予定していましたが、台風７号により主要交通網が全て止まった影響で会場へお越しいただくことが出来なくなったため、急きょ、各アドバイザーたちによる講評に変更しました。

講評では各分科会のアドバイザーから講評を頂きました。約半年前から準備してきたそれぞれのテーマについて的確な意見を頂くことができ、より分科会を充実させることができました。その後、「ボラキャン」の講師である興梠寛先生に総括アドバイザーとして私たち若者に向けて一言を頂きました。

続いて「ボラキャン」周年記念映像と、そのテーマ曲である「キセキの歌」の楽曲をBGMに、メッセージをまとめた映像を見てもらいました。動画を見ることによって「ボラキャン」の歴史を感じ、この歴史ある「ボラキャン」に参加し新たな学びを得ることができたことを誇りに感じました。そして、各分科会から選出した参加者に「ボラキャン」に参加した感想を発表してもらい、「とても楽しかった」、「とてもタメになった」などの感想を頂きました。最後にECの北岡芽依さんの閉会宣言を持って、第18回国際ボランティアワークキャンプinASO」は幕を閉じました。全員がこの３日間を振り返り、今後にどう繋げていくべきかと考えることができた講評、閉会式でした。今回の「ボラキャン」に参加できたことをこれからの生活に反映させていきたいです。今回、このような貴重な経験をさせていただいた関係者の皆様に感謝致します。

「阿蘇神社視察」

報告者：髙浪　悠理（東稜高校）

国立阿蘇青少年交流の家での２泊３日を終えたあと、最後のプログラムとして阿蘇神社と門前町に行きました。この日も天候がすぐれず、雨が降ったら中止ということでしたが、無事に行くことができて皆嬉しそうでした。門前町では、お団子、きゅうり、コロッケ、かき氷、ジュースなど、各々好きなものを買って食べ歩きをしました。どれも美味しく、とてもいい思い出になりました。阿蘇神社では、おみくじを引いている人が多く、書かれている内容を友だち同士で見せ合って盛り上がっている様子が多く見られました。最終日だったため、ECも参加者も疲れ切っている人が多かったようですが、視察している間は皆とても楽しそうにしていて、いいリフレッシュになったと思います。また、３日間を通して参加者たちはとても仲が深まったようで、それがとても嬉しかったです。今回のボラキャンに参加できたことに感謝し、ここで培った貴重な経験をこれから活かしていこうと思いました。

「実行委員長からお礼のメッセージ」

嶌村　理彩（九州学院高校）

みなさん、こんにちは。第18回国際ボランティアワークキャンプ実行委員長の嶌村理彩です。今回のボラキャンはあなたにとってどのようなものでしたか？自分の視野が広がった人、はっきりした目標ができた人、純粋に楽しむことができた人、ボラキャン後、様々な感想を聞かせていただきましたが、皆さんにとって「参加してよかった」と思ってもらえるような、貴重なものになっていたらいいなと思います。私が今回ボラキャンの実行委員長として参加したきっかけも、前回の第17回の時に一般参加者として参加して、多くのものを得たことでした。今回のボラキャンも、私自身、様々な面で成長することができたと思っています。そして何よりの糧は、普段なら関わることのない他校の人や留学生など、多くの仲間に出会えたことです。人と人とのつながりの大切さというのを学ぶきっかけにもなりました。

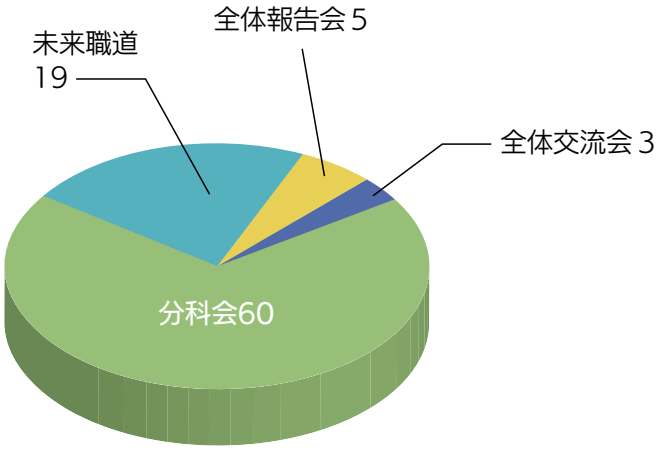
私たちECは昨年の冬から集まりはじめ、準備を行っていく中で私たちEC自身も、初めてのことや知らないことばかりで、自分が何をしたら良いのか正直分からない人も多かったと思います。学校や部活動などで中々EC会議に参加することが出来なかったりする人たちもいて不安な時期もありましたが、一般参加者たちの気持ちを考えながら試行錯誤を重ね、ボラキャンを作り上げていくECたちを見ていると、不安な気持ちを忘れている自分がいました。今回は、EC一同、何より〝楽しい〟ボラキャンに！ということを目指して頑張ってきました。そして参加者たちから「楽しかった」と聞くたびに、涙がこぼれそうになりました。私が、前回ボラキャンに参加してたくさん成長できたように、来年も参加したいと思ったように、今回の参加者たちの中から次につないでくれる人が出てくることを心より願っています。ECやサポーターの方々に、そして参加者の皆さんに沢山支えられました。ボラキャンに関わる全ての方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

第18回
国際ボランティアワークキャンプ
in ASO

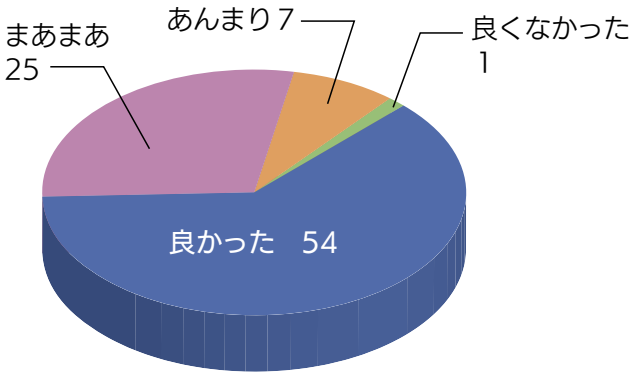
アンケート集計

回答数87
（参加総数90人）

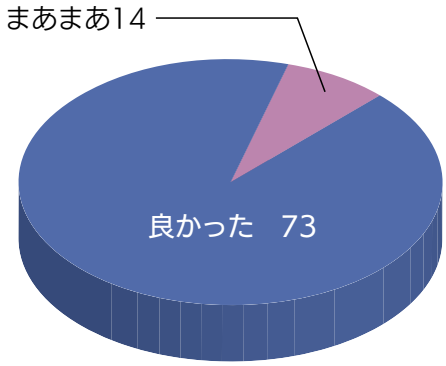
・一番印象に残った活動は何ですか



・基調講演はどうでしたか



・実行委員の対応はどうでしたか



・一番印象に残った活動は何ですか

分科会（60人）
- 自分がいつも考える視点と違った目線で他の参加者たちと環境問題について深められてよかった
- １つのテーマについてみんなで考え話し合い、それぞれ違った意見が出てきて楽しかったから
- 外国のルーツを持っている人が沢山いて、みんなでゲームしたり楽しみながら交流できてよかった
- 自分の興味がある分野をとことん追求することができたから
- 学年関係なくみんなで楽しく学べたから
- いろんな人たちと子供の権利について意見をだしたりして楽しかったから

未来職道（19人）
- たくさんの活動が聞けて楽しかったから
- TEDとかJICAの話を普段は話を聞く機会がない団体と話せたから
- 自分の中の将来へのモヤモヤした気持ちが晴れ、ハッキリした目標ができた

全体報告会（５人）
- 全ての分科会の意見・考え方が知れて、自分の学びになった
- 他の分科会で行ったことなどが聞けたから

全体交流会（３人）
- みんなで楽しく遊んで交流を深められたから

・基調講演はどうでしたか

良かった（54人）
- 〝Volunteers are a bridge to hope〟が印象に残っています
- 貴重な体験をされてきた上で問題の解決策の一つに教育現場の改善も大きくあると思ったから
- 自分のためにも相手のためにもよりよい世界というのがよかった
- 海外と日本のボランティアへの意識の違いなどを知ることができたから

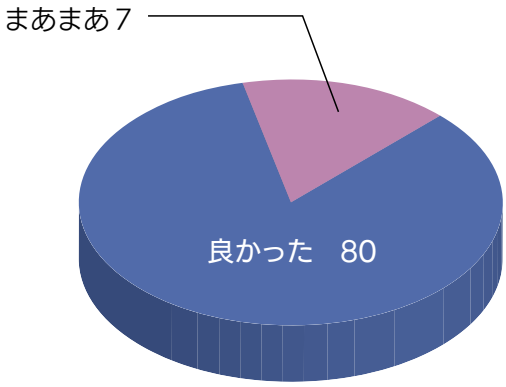
まあまあ（25人）
あんまり（７人）
良くなかった（１人）

・実行委員の対応はどうでしたか

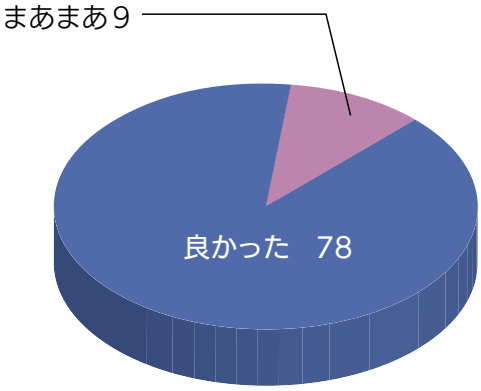
良かった（73人）
- 統率してしっかりわかりやすく親切に接してくださって自分もそうなりたいと思ったから
- 一緒に考えてくれて、すごく頼りになった
- 同じ高校生なのにみんなをまとめたり、サポートしたりしていてすごいと思った

まあまあ（14人）

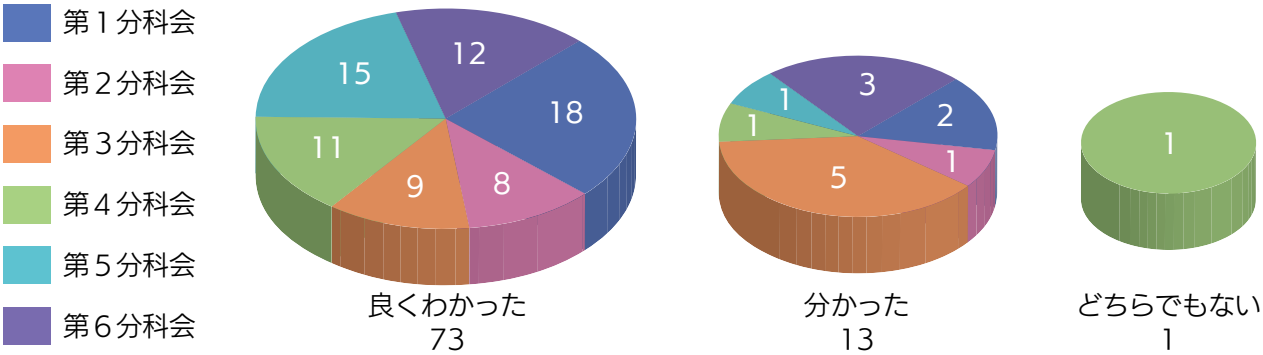
・全体交流会はどうでしたか



・未来職道はどうでしたか



・分科会活動はどうでしたか



・来年のボラキャンでECとして参加したいですか　12人

・全体交流会はどうでしたか

良かった（80人）
- 全員が自分の分科会、他の分科会への理解を深められたと思う
- 住んでいる場所も学校も違う友達をつくれて嬉しかったから
- 他の分科会の人とも喋ることができたから
- キャンプファイヤーやミニゲームが楽しかった
- 他の団体への配慮を行うことができたし、頑張ってほしいと思った
- キャンプファイヤーは普段からなかなかすることがないので印象深かった
- たくさんの人と交流ができて、聞きたいことを質問できて、自分の将来に役立つ情報を知れた

まあまあ（7人）
- 声が小さい参加者が多くみられた

・未来職道はどうでしたか

良かった（78人）
- 興味のある分野のブースなどもあっておもしろかった
- ジオパークの説明では阿蘇の自然の大きさを感じたから
- 将来色々な選択があることを知った
- ボラキャンみたいな活動は、ほかにもたくさんあることに気づいたし、他国にも行ってみたいと思った
- 色々な立場で働く人の話を聞くことができたから

まあまあ（9人）

・分科会活動はどうでしたか

よく分かった

第１分科会（17人）
- 体験やクイズなどがあり、わかりやすかった
- 他国の人から見た日本について知ることができて楽しかった
- 国籍だけでなく、年齢や環境によっても「文化」が違うことがわかった
- 特にECの方々のプレゼンは「多文化共生」に近づくために大切なお話だと思った

第２分科会（8人）
- 特に印象的だったのが、平和には立場上のとらえ方がいろいろで達成するためには、もっと知る必要があると思った

第３分科会（9人）
- 海外の教育と日本の教育の違いについてよくわかった

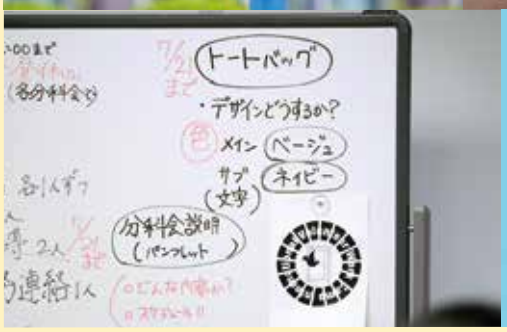
第４分科会（10人）
- グループワークでみんなの意見で新しい考えが増えた
- ECの方も議論がスムーズに進むようにサポートしてくださり、自分の意見、他の意見も深められたので参加してよかった
- 子供たちの現状や私たちにできることを考えることができた
- 子供の権利について、わかりやすく伝えてくれて、自分が知らなかったことをたくさん知ることができ、とてもおもしろかった
- 子供のいじめや虐待など理解を深めることができた

第５分科会（15人）
- 参加者のみなさんが、自分が思っていたよりも積極的に発言していたことがよかった
- 去年は食品ロスだったけど、もっと将来に近い分科会の活動に参加してみて、詳しく貧困のことが学べた
- リラックスしながら、楽しく学ぶことができた

第６分科会（10人）
- 具体的なビジネス案を立てたりして新鮮なアクティビティでメンバーと環境問題がどれだけ深刻で対策が厳しいか学んだ

第18回ボラキャン実行委員メンバー15名（敬称略）

- 実行委員長　嶌村　理彩（九州学院高校）
- 副 委 員 長　古賀　咲希（九州学院高校）
- 副 委 員 長　髙本　いろは（必由館高校）
- 書　　記　北岡　芽依（熊本学園大付属高校）、李　　明禹（翔陽高校）
- 実 行 委 員　カリエリ テリシャメイ（慶誠高校）、小島　優里（必由館高校）、坂上　絢咲（済々黌高校）、佐藤　美優里（必由館高校）
  杉浦　光里（八代白百合学園高校）、髙浪　悠理（東稜高校）、田口　紗瑛（八代高校）、前田　祐輔（文徳高校）
  松野　栄大郎（熊本学園大付属高校）、吉田　いろは（八代白百合学園高校）



構　成　団　体／税理士法人近代経営、株式会社日本リモナイト、一般社団法人ドリーム・ラボ、熊本ユネスコ協会、一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
協賛・協力団体／独立行政法人国際協力機構九州センター、日本ボランティア学習協会、大学コンソーシアム熊本
後　援　団　体／熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社

助成団体：「(公財)中島記念国際交流財団助成」(独)日本学生支援機構留学生地域交流事業

【事 務 局】
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団(熊本市国際交流会館)
熊本市中央区花畑町4番18号　(TEL)096-359-2121　(MAIL)pj-info@kumamoto-if.or.jp

VOLUNTEER WORK CAMP_KUMAMOTO